



経済産業大臣 平沼赳夫様

東京電力等による原子力発電所の事故隠しと国の原子力政策に対する 要望書

東京電力の福島第一原発、福島第二原発、柏崎刈羽原発で10年以上にわたり事故隠しが行なわれていたことが、8月29日に公表されました。その後、東北電力、中部電力、日本原子力発電、四国電力でも事故隠しが行われていたことが明らかになりました。電力会社や、原発メーカーの企業倫理の欠如と無責任体制に驚きと怒りを強く感じ、それに対して監督責任を持ち、市民の安全確保を使命とする経済産業省と原子力安全・保安院がその責任を果たせていないことに強い危惧を覚えます。特に、今回の問題の全容を明らかにしないまま、シュラウドなどにひび割れが起こっていても原発が稼働できるように検査制度を緩和する法案を臨時国会に提案することに強く反対します。

「日本YWCA核兵器廃絶と脱原発をめざすプロジェクト」は、経済産業省（原子力安全・保安院および原子力安全委員会）に対して下記のことを要望します。

記

- 1) 今回の事故隠し事件を解明するために国会で正確な報告と十分な審議をすること。
- 2) 原子力安全・保安院が命じた全電力会社の原子力施設総点検の結果をすべて公表すること。
- 3) 13ヶ月間隔の定期検査体制を堅持し、検査体制を拡充すること。原発の安全性を低下させ事故の危険性を高める「維持基準」の導入はしないこと。
- 4) 経済産業省や原子力安全委員会から独立した第三者機関による監査体制を構築すること。また、経済産業省から独立し、調査権限と調査能力のある告発受け入れ機関を設けること。
- 5) 原子力発電コストを安価にみせるために、無理な操業と安全システムの軽視（例：定期検査の簡略化）等非常に危険な状況をうみだしていることを直視すべきです。老朽化が進んでいる原発を安全に閉鎖するように、根本的に原子力政策を見直すこと。
- 6) 原発の新規建設・増設計画を中止すること。
- 7) プルサーマル計画を白紙撤回し、六ヶ所再処理工場の建設と稼働を中止すること。

2002年10月18日

日本YWCA

核兵器廃絶と脱原発をめざすプロジェクト

責任者 仁木三智子

